

# シニア主催セッション—造船技術，文化の保存—

正会員 内藤 林\*  
正会員 新開 明二\*\*\*

正会員 平山 次清\*\*

Preservation of Technology and Culture on Ships  
by Shigeru Naito, *Member* Tsugukiyo Hirayama, *Member*  
Akiji Shinkai, *Member*

**Key Words:** Senior member, Preservation, Culture of Ships, History of Ships

## 1. はじめに

今回初めて「シニア」と言う名前が付いたセッションを提案しました。シニア層の諸活動の幅広い成果が講演会に反映され、学会活動に新しい一面を開く事になるのを願っています。特に、シニア層が講演会に参加し易くなり現役の方々との交流が一層深まること期待しています。

## 2. 経 過

学会員が歳を重ね仕事の一线を離れる時期になると学会活動から距離を置く、或いは置かざるをえなくなるが、一方比較的自由的な時間を得る事により、仕事から離れて現職時代の船舶、海洋に関する興味を持ち続け、船舶関連に関する調査、研究、保存活動等を行っている会員個人、或いは各種グループが種々存在しています。

明確に学会内の、シニア層の委員会活動として位置付けた活動を行っている関西支部の造船資料保存委員会を始め、関東支部、西部支部内にも種々な形態でこの様な活動を行っているシニアの会員は多い。これらの内容は、新規な造船技術開発そのものではないが、文化的香りのするものから技術史的なものまで含めて多種多様で、船と人間の永い関わりを多方面から光を当てた研究調査、保存活動となっています。

これまでの学会内では、その活動状況や研究、調査結果等を発表する機会が無かったか、あるいは十分ではなかった。それは、論文の投稿規定にある論文審査八分野の中に、船舶海洋に関する文化的、歴史的部門が明記されていなく、新しい技術を開拓する論文に限定されていることも一因があると考えられ、現下では、講演会において前述のような活動成果は講演し難い状況であります。

一方、外国では、文化的、歴史的、技術的分野の論文も積極的に論文集に載せている例もあり、これはその学会の文化的価値を一層高めている。

一例として JSR, Vol.52, No.4 Dec. 2008, pp274-290 に、設計・流体分野で活躍された Prof. Horst Nowacki (独) の論文「Leonhard Euler and the Theory of Ships」が掲載された時の JSR 編集長 Prof. R. F. Beck の一文を文末に示します<sup>1)</sup>。

なお、Prof. Nowacki は「Archimedes and Ship Design」<sup>2)</sup> 等も書いて発表しています。

この様な状況の中で、本学会活動に豊かな新たな一面を開くとともに、退職したシニアの会員層の学会活動への関心を再喚起する事になるように、以下の事を九月学会理事会に提案しました。

「学会講演会の中に、現職を退いた会員の船舶海洋分野の調査活動、研究活動、保存活動、教育活動等の成果を広く公開する場を提供し、その活動を奨励する。」

そのために、今実施されている「オーガナイズドセッション OS」を基にした講演発表の場を設ける事を提案しました。更に、講演会参加費に関する提案も同時に審議して頂いた結果、下記のように決まりました。

「講演時間や原稿書式については一般のオーガナイズド・セッションに倣うこととし、講演会参加費は、終身会員との申し出により無料とし、また懇親会参加費は学生並みとすることが、満場一致で承認された。」

以上が新しいこのセッションを設ける事になった経過であります。

猶、これは初めての事ですので、実施しながら学会規約に反しない範囲で自由に変えてゆきたいと考えています。今回の OS を通じて皆様のご意見を汲み上げて永続性のある分野に育ててゆきたいと考えています。

## 3. セッション実施案骨子

- 1) 学会講演会は年二回だが、当面は年一回、春季講演会時にこのセッションを組織する。
- 2) 第一回のセッションを、2015年春の講演会(関西地区予定)とする。これが今回に相当する。
- 3) 講演は、一件討論含めて20分が基本であり、6件から8件の講演が良いと思う。三支部から2~3編の講演があるのが望ましい。セッションは、論文数に依るが、講演、討論を含めて2~3時間になろう。
- 4) 投稿が多い場合は、OS 担当で検討する。
- 5) 投稿は現役を含めて募集をする。多くの投稿があった場合は、シニアの会員を優先する。
- 6) 講演原稿、講演様式等は他の講演と同じとする。
- 7) 講演会実行委員会には、委員会の要請に応じて開催支部からシニアの会員を一人派遣する。
- 8) 講演した内容の完成論考は、希望に応じて当面学会ホームページ上からアクセスできる造船資料保存委員会の Web 上に掲載し広く公開する。

\* 大阪大学名誉教授, \*\*横浜国立大学名誉教授

\*\*\*九州大学教授

原稿受付 平成 27 年 4 月 10 日

春季講演会において講演 平成 27 年 5 月 25, 26 日

©日本船舶海洋工学会

#### 4. セッション名

セッションの主題は講演会毎に替えるが、以下のような主題が考えられている。

「文化としての船」  
「歴史の中の船」  
「海上輸送史と船」  
「太古から未来へ：船」  
「人間と船」  
「海、船と人間」  
「海・船・船造りの論壇」 等

#### 5. 具体的な課題

基本的には、船に関する事は何でも良く、ある一点に関して会員が纏めた資料、考察などが記述された論文で、具体物がはっきりして実証的であることが良い。課題として考えられる例を以下に示す。

「船の発達史」  
「造船各社の歴史」  
「水槽の歴史と遺物」  
「船のファンネル」  
「船と詩・歌」  
「舵の変遷」  
「推進器の変遷」  
「海難事故の歴史と特徴」  
「船の博物館（日本、世界）」  
「海図」  
「船に関する歴史的人物史」  
「船舶通信システムの変遷」  
「和船の特徴」  
「模型船の製作」  
「船の絵画」  
「船の切手」  
「船の絵葉書」  
「祭りと船」  
「海神と船」  
「船と宗教」  
「船の美」  
「船の写真」  
「船尾（首）形状の変遷」  
「船位測定の変遷」  
「マイルポスの歴史」  
「機帆船の歴史」  
「船構鋼材の変遷」  
「船を通じた国際交流史」  
「船や海の啓蒙活動」

等々

個々の内容については、数回の講演会の中で自然と合意が形成されることを期待している。まず、第一歩を踏み出し、国内外の他学会の動向なども参照しながら合意を得てゆくのが良いと考えている。

保存活動の例として学会関西支部「造船資料保存委員会」に保存されている、今 80 歳前後の技術者が使っていたジョージ・フラーの円筒型計算尺を文末 Fig.2 に紹介する。

#### 6. 今後について

この OS で講演された論文は、「論文集及び論文審査委

員会に関する内規」2 - (3)の審査八分野に該当しているとは言い難いので論文集への投稿を躊躇せざるを得ない。しかし、今後の動きの中でこの OS で講演された分野が新たに論文審査分野に追加されて、論文集への投稿が可能になる事が良いと考える。その前段階として、論文審査委員会が有用と判断した論文については、論文集に投稿できる道筋をつける事も大切ではないかと思えます。

シニアの会員だけでなく多くの会員の協力でこの分野が育つことを期待しています。

#### 参考文献

1) In commemoration of Leonhard Euler's 300th birthday on April 15, 2007, Professor Horst Nowacki wrote the following paper. It is not the typical Journal of Ship Research paper in that it deals with the many contributions that Euler made to our field. As engineers and scientists, we are all familiar with the advancements that Euler made in many fields. However, Euler's fundamental discoveries regarding the theory of ships are probably not as widely known. I found the paper fascinating reading and hope all JSR readers will enjoy the paper as much as I did.

2) Conference of Archimedes in the 21st Century, 31 May - 1 June, 2013, New York University.



Fig. 1 Archimedes in reference 2



Fig.2 George Fuller type Slide rule  
(Preservation No.12011)